常磐毎日
発行所 平市田町75 常磐毎日新聞社 営業部専用1210 編集部1269

憩いの……殿堂……
(女中入用)
旅館 翠月
平市新田町 電332

江名小では臨時休校か

流感 再び猛威をふるう

一時下火となつた流感は再び勢を盛り返してまんえんのキザシを見せている。平保健所の調べによると管内で約千名の児童、生徒が風邪に罹患しているものとみられており、なかでも磐城市江名小、中学校、内郷市高野小、中学校では現在それぞれ二割強が罹患、約一割が欠席しているが、江名小学校に於てはきょう十八日臨時職員会を開き休校問題について協議することになつている。このため平保健所では係官を現地に派遣して調査に当つているが現在のところ詳細については判明しない。

江名小校 江名小学校=校長小松藤治郎氏=では十八日現在全校生徒八百六十四名のうち約二割の百八十五名が罹患十四日六十五名、十六日六十名、十七日七十名、十八日五十五名が欠席しているが、まんえの恐れがあることから休校もやむない状態となつたためきよう十八日臨時職員会議を開いて協議、線を打出すことになつている。

小松校長 「最近とくにまんえんして全校生のうち約二割が罹患しているのでまんえん防止の妥当策として校医とも相談のうえ休校したいと思つている」

江名中校 江名中校=校長荒川栄氏=では全校生七百名中十八日現在で三割弱の二百名が罹患、十八日には六十名が欠席している。これは十四日ころからまんえんしたものであるが二、三日前より下火となつているものの、今後の状況によつては休校も止むないことになるのではないかといわれている

高野小 内郷市高野小、中=校長吉田新次郎氏=生徒三百名中三割強の九十六名が罹患して小、中校別には小学校では六十五名が罹患うち十六名欠席、中学校では三十一名が罹患して四名が欠席している状態であるが漸時減少の傾向をみせている。

社教振興会

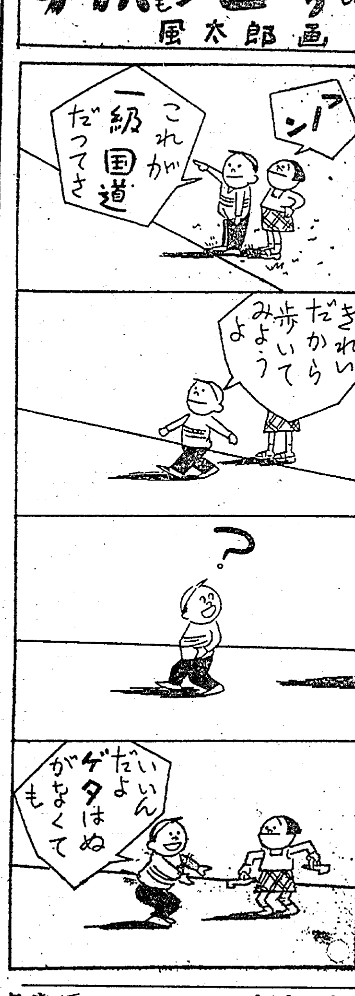
「住みよい郷土と明るい生活をつくる」ため石城地方公民館連絡協議会では二十日午前九時から第一小学校に婦人会、青年会、小、中各学校長職員、市町村議会議員などを集め社会教育の振興大会を開く。

三名が重傷負う

乗用車とトラックが衝突

十八日午前九時四十五分ごろ平市二丁目尼子タクシーのハイヤー=運転手石井勝男(三五)=に県水産係長松井淳さん(五〇)磐城市栄町漁業久保木定正さん(三九)の両名を乗車させて磐城市大原字上坪地内県道上にさしかかつたさい前方より疾走して来た磐城市江名磐城貨物所有のトラック=運転手高岡元(二八)=と正面衝突、ハイヤーは約三米跳ね飛ばされて田に転落大破したこのため乗客の久保木さんは前額部裂傷で重傷、松井さんは腰部に二週間、ハイヤーの運転手石井さんは左肋骨々折、右大たい部骨折で重傷、トラック運転手高岡さんは顔などに全治三カ月の傷をそれぞれ負い日本水素、石井両医院に担ぎ込まれた。原因は砂ほこりのため見通しが悪かつたためとみられる。

子供の世界 風太郎画



礼状から明るみへ

公安官の美挙二題

人の情とは紙より薄いといわれているが、鉄道公安官の暖い思いやりで旅客が明るく楽しい旅行をしたという新春にふさわしい美談二つがこのほど平鉄道室に舞込んだ礼状から明るみに出て関係者を喜こばせている。

(其の一)=同室河田公安官(三三)が去る十二月二十日朝平駅構内を巡視中急行券を持つて思案にくれている浦和市北浦和市長沢義弘さんを見付けて事情を問いたずねたところ同駅午前九時四十二分発常磐線上り急行北上号に乗るべく急行券を買い求めたが、それより早く到着した九時三十分発の二二四列車に変更したものの時間も発車までわずか二分しかないため急行券の払い戻しが出来ないということを知つてそれでは私が払戻しして来ると出札までいつて払戻し無事二二四列車に乗車せしめたというもので、礼状にはお陰様で明るい旅が出来ましたと書かれてあつた。

(其ノ二)=同室志賀立佑公安官(三七)と根本春吉公安官(五〇)の両名が去る九日午前三時半ころ平駅ホームを巡回中、子供二人を抱えた親が朝六時二十二分平発磐東線五二三列車に乗車すべく寒さにふるえて待つているのを見付けて、この寒空では子供達も風邪を引いてしまうと公安室のストーブで暖まらせるなどの親切をほどこし無事五二三列車に乗せてやつたというもので後になつて静岡県稲取町大畑吉田省吾さんからお世話様になりましたという礼状が届いて両名の善行が判明したもの。

銘菓 [illegible] 平凡

タコ揚げ大会

2月10日 平工校庭

平市観光課では旧正月の行事として二月十日午前十時から平工グラウンドで第三回タコ揚大会を開催する。参加者は市内の小、中学生であるが多数の参加を望んでいるなお賞品は一等市長賞、二等(二点)市商工会議所会頭賞、商連会長賞のほか三等三点、四等四点、五等五点、参加賞などがある。

家具の あるが 平銀座店 電三三 平四丁目店

23日に公売 平市の差押品

平市税務課では二十三日動産、二十五日不動産の差押物件公売を執行する。公売物は動産では戸棚一点、タンス九点、茶ダンス三点、その他時計、イス、自転車、ミシンなど十一点、不動産では山林一宅地二、家屋十三となつている。

精勤者など表彰

平料亭、藝妓屋組合

平料亭組合、平芸妓芸妓屋組合の新年懇親会はあす十九日午後一時から公会堂日本間で開かれるが、席上両組合では次の永年勤続者、芸道精励者を表彰する。

「平芸妓芸妓屋組合」◆永年勤続者▽七年=小りん(喜美の家)、とみ子(久本)▽五年=鈴代(鈴江)、和美(若竹)、小紅(吉野家)、小桜(湖月)、久丸(久本)▽三年=染千代(分すず)、駒吉(龍の家)、ひろ子(久本)、高丸(福清)、久菊(久本)、春駒(分桝美)◆芸道精励者▽総合賞の部=とし子(寿々の家)、うき子(寿々の家)、深雪(久本)、とみ子(久本)▽分科賞の部=花柳舞踊久菊、かつ子(久本)、常磐津春駒(分桝美)、清元小桜(湖月)、長唄さよ子(久本)、小唄小次郎(稲家)、端唄松奴(松の家)、せつ子(金本)

「平料亭組合」◆永年勤続者▽満五カ年=野口ヨシ子(のんき)、沢田澄子(一平)▽満三カ年=猪狩年子(太田屋)、秋元俊勝(味郷)、佐藤ミネ子(開花)、三浦正美(太田屋)

水石厚生園の新事務所 電一四二〇番

去る七日の石炭会館の火災で焼失した社団法人水石山自然厚生園水石山ゴルフ倶楽部ではこのほど事務所を平市紺屋町五〇(飯田カメラ店となり)常磐炭砿平休養所にうつした。なお電話は平一四二〇番になつた。

大谷石 井上 平五電66

助け合い募金の配分 磐城市で決る

磐城市では十七日三十一年度才末助け合い運動に寄せられた二十九万六千九百六十四円(目標額二十八万二千九百円)の配分委員会を開き、次の通り決めた。

◇被保護者六千百二十円(二百三十五世帯)◇未引揚者留守家族二千二百円(十一世帯)◇入院患者慰問費一万二千円(六十世帯)◇市内小中貧困生徒十七万六千二百六十四円◇県送附金四万五千三百

金子さん寄附

平市田町飲食店主金子松男氏は亡父の遺志により十七日田町青年会に五千円、平市飲食業会に五千円、平消防団二千円、平養老園に二千円、平福祉事務所二千円、平第一小学校に二千円をそれぞれ寄附した。

鈴木ミシン商会 平市五丁目 電一〇九八

勿来未亡人会役員

勿来市の未亡人会では合併前、別口だつた会を統一して会員相互の横の連絡をとりお互の発展をはかるためこのほど勿来市母子福祉協議会を結成して第一回総会を錦公民館で開き役員を選出した。

▽会長成清政子◇副正木巻子、金成しん、芳賀ふく、木内タイ

父 金田久馬儀永らく病気療養中のところ薬石効なく本日(十八日)午前十時五十分七十五歳の高令を以つて永眠致しました

茲に生前の御厚誼を深謝し謹んで御通知申し上げます

追而葬儀は来る一月二十日午後一時より二時まで自宅に於て告別式を相営みます

昭和三十二年一月十八日

平市草野字泉崎

喪主 金田定男

親戚総代 金田昇一 管野福七 島田勝吉

友人総代 猪狩四郎

福寿院葬送の際は御多忙中にも拘らず遠路態々御会葬下され且つ御鄭重なる御香奠を賜り御芳志誠に有難く深謝致します早速拝趨の上御禮申上ぐべき処略儀ながら紙上を以て右御禮申上げます

昭和三十二年一月十八日

喪主 金子松男
葬儀委員長 鈴木正男
親せき代表 金子重次
友人代表 長谷川鉄重
大泉信雄
平市飲食業会代表 加藤武久

弊社取締役金子福蔵殿葬送の際は御多忙中のところ遠路態々御会葬下され且つ御丁重なる御香奠を賜わり御芳志のほど誠に有難うございました

早速拝趨の上御礼申上ぐべきところ略儀ながら紙上を以つて御礼申上げます

昭和三十二年一月十八日

平市田町五 常磐食品株式会社

会長金子松男氏厳父金子福蔵殿葬送の際は御多忙中のところ遠路態々御会葬下され且つ御丁重なる御香奠を賜わり御芳志のほど誠に有難うございました

早速拝趨の上御礼申上ぐべきところ略儀ながら紙上を以つて御礼申上げます

昭和三十二年一月十八日

平市飲食業会

一四会幹事金子松男氏厳父金子福蔵殿葬送の際は御多忙中のところ遠路態々御会葬下され且つ御丁重なる御香奠を賜わり御芳志のほど誠に有難うございました

早速拝趨の上御礼申上ぐべきところ略儀ながら紙上を以つて御礼申上げます

昭和三十二年一月十八日

一四会 会長 松崎一 矢吹大一郎 永島道雄 屋島治三郎 鈴木文雄

厚生医療指定病院 財団法人 竹林病院
本院 平市十五丁目十三番地 電話六〇八・八一二番
分病棟 平市小太郎町十三番地 電話一二七四番

ダイヤモンド毛糸
春色全色揃いました
半ポンド 八〇〇円
ハシモトヤ糸店 平市銀座街 TEL14

石炭 コークス
火力の強い 火持の長い カスの少い
徳用石炭
◆電話三七番・二三七番へ 一俵よりお届けいたします
平市田町 常磐炭礦販売会社

少年オッテナ 74

えと文 谷田部風太郎

地獄谷の生にえ 6

「怪人めつ。よくもで来た。ついでにきさまも一緒に地獄へほうりこんでやる。やいやい者共何を驚いている。こいつは唯の人間だつ。魔法使いでも何でもないから、早くやつつけろつ」

化物の言葉にカンパラも勢づいたようです。兵士たちは怪人に向つて再び攻撃の姿勢をとりました。

怪人はいまは何をいつても無駄と思つたのでしよう。やつと刀の柄に手をかけて四辺をにらみました。

「いまだつ」

トリヤもムビヤンも同時に叫びました。入口の敵も怪人に気をとられて、こちらに背を向けています。みんなは一団になつたまま、ダダダダツと走りよつて、敵の背後から斬込みました

敵はたちまちはちの巣をつついたような騒ぎになりました。

怪人物一人でさえ容易でないところへきて、予期しなかつた援兵が現われたからです。

トリヤは、当るをさいわい、倒しました。シアシャクもカパルスも後からつづき、レバは遠くから吹矢で攻撃します。ことにムビヤンの働らきは目ざましく、鬼神のようなはげしさでしたが、怪人は、話にならない早業をもつて、一度に二人や三人も斬倒しました。静かだつた広場の上には、またたき一つする間に、阿鼻叫喚の修羅場と化したのであります。

敵はもう半数以上も倒されて浮足だつています。もう一息、もう一息とみんなは、力をあわせて斬りまくりました。

けれど人の運などというのはどこでどう変化するか一寸先のことは解らないものです。みんなは戦いながら、化物の声を耳にしました

「ヒツヒツヒヒヒ。馬鹿者共。いくらでも暴れるがいい、もつともつと血を流せ。だが、このシユパチの命はおれかもらつてやる」

みんなはギクツーとしてその方を見ました。みんなが敵を倒すことばかり考えている間に、化物はシユパチの前に立つて、尋のついた刀を、その胸におしつけているのです。

「どうだ降参せぬか。シユパチの生命がおしければ刀を捨ろ」

これではいかに一同が強くても、手も足もでません。酋長を救う目的で来ていながら、ここで酋長を殺されては、遥々苦労を重ねてやつてきた甲斐がありません。大勝利と見えた味方は完全な敗北となつてしまいました。

「止むを得ん、刀を棄てよう」

ムビヤンは無念そうに、刀を地面にたたきつけました。トリヤもシヤシヤクもカパルスも、しぶしぶながら武器をすてました。幸なことには、味方に傷ついた者は一人もなく、着物だけはぼろぼろに破れていました。少年たちがこれほど暴れても、かすりきず一つ負わないというのは不思議なくらいですが、怪人に度胆をぬかれていた顔の兵士たちだから、どちらかと言えば逃げ腰だつたので斬りかかつて来る余裕がなかつたのかもしれません。

（つづく）

功労者など表彰
常磐調理士会の包丁祭

常磐調理士睦会＝会長武田良吉氏＝で恒例の包丁祭及表彰式を二十日午後一時から平市公会堂日本間で開き、祈祷をあげて包丁の供養を挙行する。当日の表彰者は次の通り。

◆功労者＝相良勝次（平）松家源治（磐城）◆永年勤続者＝王闘司（常磐）藤田金太郎（常磐）阿部正二（平）佐藤俊晴（植田）本多春男（平）

六・三五 次郎物語
六・四〇 スポーツ便り
六・四五 四局通信
七・一五 録音ニュース
七・三〇 花の星座
八・一五 演芸独演会
九・〇五 ニュース解説
九・一五 連続ドラマ
九・三〇 週間社会展望
一〇・一五 放送劇
一一・〇〇 きょうのニュース

◆ラジオ福島
六・〇五 トニーの童話
六・一五 劇
六・四〇 永遠に答えず
七・一〇 録音ニュース
七・三〇 歌うエンゼル・タイム
八・〇〇 素人歌合戦
八・三〇 テルミーおしやれミユージック
九・〇〇 明色歌謡ゲーム
九・三〇 夢のダンス
九・四五 お楽しみ大入袋
一〇・〇五 名作アルバム

今晩の映画

▼聚楽館 廿三日マデ
六・三〇 誇りと冒涜
八・三〇 叛逆者の群れ
▼平館 廿一日マデ
七・二〇 いとしい恋人たち
八・三〇 相馬の唄祭
▼民劇 廿一日マデ
七・二七 東京よいとこ
八・四九 ラドン
▼東映劇場 廿一日マデ
七・〇五 七つの誓い（第三部）
八・四〇 謎の紅れん塔
▼世界館 廿一日マデ
七・一八 編笠権八
八・三九 鬼姫競艶録
▼ひかり座 廿一日マデ
六・三三 野性の誘惑
八・〇六 過去をもつ愛情

ナシヨナル・ラジオ・洗濯機
お買求めには弊店の月賦制度…
…がとても御便利です
（割高にならない一番お得な分割6回払）
洗濯機 ラジオ 螢光灯
石川電器店
平市才槌小路

高校美術展 19日マルトモ

高校美術クラブ連合会展は十九、二十日の両日平市四丁目マルトモホールで開かれる。出品作品点は磐高十五点、磐女二十点、平商六点、平工八一十点。

今晩のラジオ

◆NHK（第一）
六・〇〇 子供のシンブン

平観光音頭
平市歌の北郷氏が作詩

さきに平市民の歌を作詞した平市大町三一北郷雪夫氏(四七)はこんど〃平観光音頭〃を作詞して市観光課に贈つた。この音頭は十二節からなり、内容も市内の名所、観光地を各節に取り入れた情緒豊かなものである音頭の内容は次の通り

一、ハアー汽車はネ
汽車は三筋に棚引く煙り
街にゃ繁昌のソレ人の波よイ
並ぶ店々ホイえくぼを添えて
グリーンベルトの花だより
「はやし」ソレ来てよい見てよい遊んでよい、

二、つきぬ名残りの物見ケ岡に
めぐる古城の夢のあと
さくら、つつじと尼子の橋に
かけた浮名も松ケ岡

三、名どこ平が絵のように晴れて
春の片浜虹の橋
その名嬉しやロマンスカーで
寄つてみましよう競輪場

四、お浜大漁で港が栄え
沖にや度胸の網おこし
豊間娘が弁天さまよ
ウナギのびのび記念物

五、行こか水石赤井の薬師
いわき七浜ひと眺め
はづむ青春ローンの夢に
願をかけましよ思い出に

六、雲の羽衣松原越しに
波も浮かれる新舞子
ピーチパラソルキャンプも楽し
観光日本の自慢どこ

七、誇ら鵜の鳥二見ガ浦にゃ
夫婦契りの二つ岩
燃ゆる思いもくるくるくるり
招く燈台恋あかり

八、おとめ着飾り七夕まつり
いきな浴衣で盆のうた
星も踊るよ七色花火
情緒ゆたかな夏まつり

九、吹くはそよ風お堀の水に
映す絵日傘舟あそび
鯉をつる身に情けもふかい
昔がたりの舟後沢

十、黒いダイヤと景気のうたに
暮れてネオンの花ざかり
三味は流れるジャズさえ響く
主と逢う夜の新田町

十一、谷の紅葉はわたしの心
呼んでいるよな夏井川
恋のしぶきが瀧場の滝に
ぬれて二ツ箭山のぼり

十二、梨は出盛りとしごろ娘
みんなしなよく甘い味
銘菓いろいろ郷土のみやげ
一つ食べたらまたひとつ

昭和32年 謹賀新年 1957年

◎シネスコと名画は
湯本座
青木安雄
電一〇三

◎国鉄推薦旅館 ◎交通公社協定旅館
温泉旅館 古滝
常磐市湯本 電一五九・二五九

謹賀新年
竹本喜美太夫
常磐市三函 電一三六

常磐郵便局
局長 助川寅之助
庶務会計課長 武藤七郎
郵便課長 猪股峯二
貯金保険課長 永山秀明

◎祝祭日には国旗を揚げましょう
湯本温泉神社
宮司 佐波古直貞
氏子総代一同

◎冬は暖いレストランにてお食事を……
食事のデパート 清水屋
常磐市横町 電二三七

湯本温泉旅館組合
組合員一同
常磐市中央通り（事務所）電一一七

内郷市立高坂小学校
校長 水野武
PTA会長 遠藤英男
施設後援会長 鈴木吾政

◎本年も看板は……
御代看板店
常磐市湯本電一七四

◎紳士婦人既製服の店……
泉屋洋服店
常磐市 電三五二(乙)

◎コールドパーマ・美顔術・日本髪・婚礼着付
サン美粧院
常磐市湯本 電三四九(乙)

◎建築木材建具材・秋田杉ラワン材・大谷石
玉木屋材木店
常磐市湯本 電二二

◎神経痛の名湯……
うばの湯
湯本町上湯長谷 電三三 駅前案内所 電三六〇

◎温泉旅館……
昭和館
湯本町表町 電八

◎白鳥鉱泉……
元湯 喜楽屋
常磐市白鳥 電二二七 駅前案内所 電三二七

◎本年もよろしく……
簡易旅館 玉の湯
湯本品川工場前 電二三三

◎白鳥鉱泉……
春木屋
常磐市白鳥 電一二四 駅前案内所 電三六四

◎器具販売修理電気工事……
吉村電気商会
常磐電気工事KK 湯本代理店 電一六五

◇和洋酒の御用命は……
後藤酒店
常磐市中央通り 電四五

◎コールドパーマ・美顔術・日本髪・婚礼着付
草野美容院
常磐市表町 電二三三

◎呉服と服地毛糸の店……
塩屋呉服店
湯本町 電五八